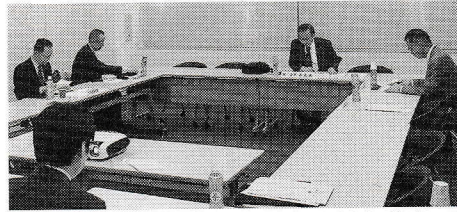


平成27年度  
JRA事業  
第2回機能微生物による蜜  
源植物増殖総合研究事業推  
進委員会開催

3月8日(火)13時30分～  
15時30分に馬事畜産会館  
で開催された。

委員等

- 委員長 關 文威(筑波大学名誉教授)
- 委員 前田昌調(宮崎大学名誉教授)
- 浅井辰夫(静岡大学農学部助教)
- 三浦生好(奈良県養蜂農業協同組合事務局長)(吉)



第2回 機能微生物による蜜源植物増殖総合研究事業推進委員会

村委員代理) オブザーバー  
山本 淳(鹿児島大学水

産学部教授) (欠席)

●日蜂協

山時文昌(日蜂協常務)

議題

(1)機能微生物による蜜源植物増殖総合研究事業概略について

事務局より本事業の概略の説明が行われた。

(2)食害等に対するレンゲ等の抵抗性の強化試験について

前田委員の指導の下、平成27年度は、蜜源植物であるレンゲの成長を促進する善玉微生物の菌株を見つけ出し、病原菌を殺滅、排除することを明

らかにした。また、この菌株を凍結乾燥粉末化し、レンゲ種子に付着させ、熊本県5か所、宮崎県と鹿児島県に各1か所水田に播種した。

さらに、機能微生物による農作物の収穫量の増大効果を検証するため、ナスの植栽時に微生物投与試験を行った。

(3)害虫を駆除する益虫の効率的培養方法の開発試験について

前田委員の指導の下、平成27年度は、アルファルファタコゾウムシの促成飼料としてアルファルフアの暖地向け品種「ネ

オタチワカバ」の播種を行った。

また、ネオタチワカバの生育に適している水は

けの良い農地を選定し、益虫の生産を目的としたハウスを設置した。

ミツバチの新聞

日蜂通信

THE NIPPO-TSUSHIN 第616号  
2016年(平成28年)3月25日発行

蜜源植物増殖総合研究事業は、レンゲを主とした蜜源植物の安定した繁殖とアルファルファタコゾウムシによる食害防除を目的として、機能微生物によるレンゲ抵抗性の増進および害虫排除の研究を進めています。参加機関は、(一社)日本養蜂協会、鹿児島大学、鹿児島県、熊本県、宮崎県、バイオプロジェクト(株)および農水省で構成され、また、推進委員会には筑波大学、静岡大学、岡山県も参加しています。本事業は、3年の研究期間で実施され、研究費については日本中央競馬会の補助を受けています。